

不登校児童生徒への対応事例10（中学校第2学年女子）

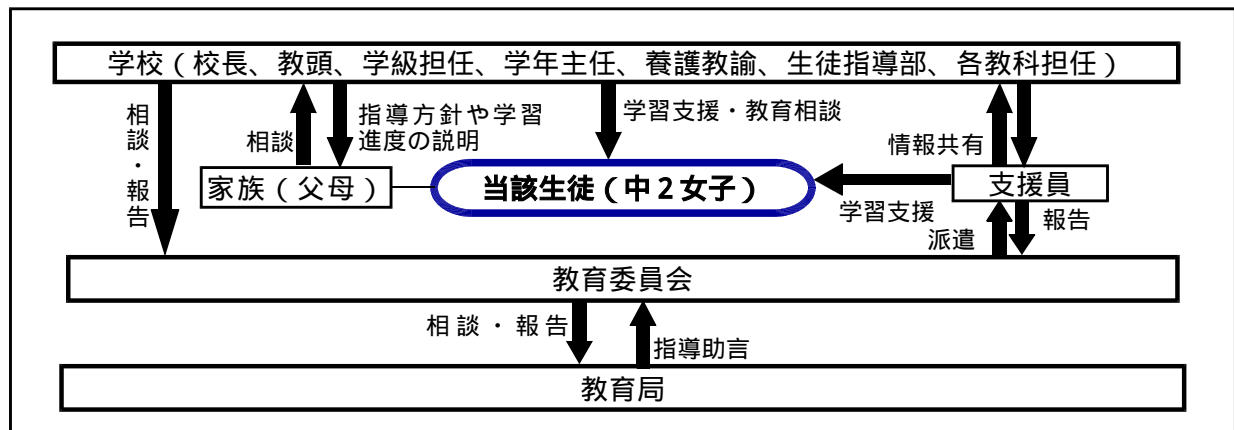
～学校、教育委員会、教育局が一体となった組織的な対応～

問題の把握

7月上旬、担任は当該生徒から、仲間との会話にうまく入れないなど、学級の中で疎外感を感じているとの相談を受けた。学校は、学級の間人関係の把握や学級経営の見直し、当該生徒に対する教育相談の充実などに努めたが、7月中旬から当該生徒の欠席が続くようになった。

保護者は、当該生徒の欠席に伴う学校の指導の方針や当該生徒の学習進度の遅れなどに不安を感じていた。

対応状況



教育局の対応

支援の方針の明確化、全教職員の組織的な支援、全校生徒に対する教育相談体制の充実などについて指導助言した。

教育委員会の対応

教育局の指導助言を受け、学校へのきめ細かな支援を行った。

学校の対応

教育局の指導助言や教育委員会の支援を受け、

当該生徒に対しては、「教科担任を中心とした家庭訪問等による学習支援」、「教頭、生徒指導部を中心とした保護者とのきめ細かな情報共有」

全校生徒に対しては、「いじめアンケートの実施」、「教育相談の一斉実施」、「生徒会が主体となったあいさつ運動の実施」

など、生徒指導体制の見直しと具体的な取組を行った。

支援の経過

- ・ 7月中旬～
 - ・ 夏季休業中
 - ・ 8月下旬～
 - ・ 12月中旬～
- ・ 全教職員による具体的な支援を開始した。
 - ・ 家庭訪問により、学習支援や教育相談を継続して行った。
 - ・ 当該生徒は、別室登校を始めた。遅刻や早退をしたときには、家庭訪問により学習支援を行った。
 - ・ 遅刻や早退はなくなり、学校の日課に合わせて別室で学習を行うようになった。

この間、学校は、保護者に対して、支援の状況の報告や支援の方針の確認などをきめ細かに行った。

不登校の問題を速やかに解消するためのポイント

- ・ 学校、教育委員会、教育局が一体となって対応すること。
- ・ 当該生徒及び保護者への支援体制や方針を明確にすること。
- ・ 当該生徒や保護者の悩みに寄り添った支援を粘り強く行うこと。